トーマス通信

2013 春 号

vol.08

豊かな実りは自然の土壌から

トーマス通信キャラクター「トーマスくん」

世界の微生物界をリードする、アープ・トーマス・オルガ菌

自然環境農法の基本は「健康」な「土づくり」から

障害対策

障害の改善・軽減を図り作物の健全生育を促し、

高品質な農産物の生産と多収量により **安定経営**

【今月号の表紙】

㈱バイオ・グリーン養蜂部

当社では、5年前にミツバチが全国的危機に瀕していると知りました。顧客であるイチゴ農家からも同様の話を聞き、深刻に受け止めました。
そこで、何とか養蜂が出来ないものかと調査を始め、当社に隣接している鬼怒川河川敷のアカシヤ林という好条件を生かし、平成21年より開業し、着々と増蜂。貸蜂が出来るまでになりました。

当地はアカシヤの密集地。初夏にはアカシヤの花の香りで蜂も元気に飛び回ります。

春から初夏にかけてこの様な蜂の塊が木にぶら下がっているのを見かけた方も少なくないと思います。
これは【分蜂（ぶんぽう）】と言い、ミツバチが種を残す為の重要な行動で、新しい女王蜂が居残り、今までいた旧女王蜂が働き蜂を半分連れて巣別れしていくことで群が増えます。
養蜂家にとっては、半分の蜂を逃がすことになるので、分蜂されないように管理すべきですが、初心者につきたくさん分蜂させてしまいました。ご愛嬌を ☺

『自然環境農法』栽培と経営紹介

イチゴ栽培、「紅ほっぺ」にこだわっての二家族紹介

栽培地 茨城県鉾田市徳宿◆ 横田洋治様ご一家

概　要 イチゴ栽培を始めて25年になります。「平成13年からトーマス菌を使用するようになって、全体的に良くなって来ました。」と話す祖父の貢さん（77歳）は、毎年トーマス菌で良質な完熟堆肥を作り基本的な土づくりには手を抜きません。
又、洋治さんも大変しっかりと管理をする方です。洋治さんは、「最初使用した時、定植2週間経過したあたりで毛根の伸びが早く、土壌の団粒構造化されたふわふわの土に驚き、また病害も激減。以来、農薬による土壌消毒はなくなりました。太陽熱処理と、自然環境農法の健康な土づくりを同時に行なっています。」と話していました。

祖父の貢さんは、堆肥作りに余念がありません

笑顔の素敵なお祖母さんを始め、明るいご一家です。「気候の変化に伴いイチゴの管理と健康管理は似ていますね」と奥様は気を使います。やはりイチゴは細かい作業が続きますので家族の健康あっての連携作業なのですね。

栽培地 茨城県鉾田市樅山◆ 鯉沼篤様ご一家です

概　要 こちらの鯉沼篤様も「べにほっぺ」を自然環境農法で栽培している方です。イチゴ栽培を始めて20年になりますが、トーマス菌との出会いは、平成14年からで自然環境農法による土作りをし、土が軟らかくなり、徒長せずじっくり育って行く様子は、毎年わくわくするそうです。
土づくりは太陽熱処理し並行して、土を労るやり方を長く続けていますと鯉沼さん。79歳と75歳の両親も健康で、毎日の選別作業で心意気はまだまだ若さいっぱいでした。

とにかく今年は
大きかったし、
でも実が締り美味しさ
バッグンでしたワン。

鯉沼さん談

今年のイチゴは12月の悪天候に加え平均して天候に恵まれない年でしたが、幸い形状もまずまずで収穫量も平年に比べ多かったとの事でした。後半はダニ対策をしっかりと行い、更なる収量増を目指しますと話して下さいました。　取材：阿部所長

人生方向転換し、それぞれのこだわりを生かした

栽培地　栃木県宇都宮市篠井町◆阿久津悦男様

概　要　阿久津さんは元々会社員でしたが、人生にこだわり、サラリーマンは30年と決めていたそうです。それが5年前でした。ハウスを30a建てアスパラガス栽培を始めました。お人柄の真面目さが研究心を掻き立て栽培するのであれば食べてくださる方々に喜んでもらえる作物を作りたいとの信念から、肥料は有機質系を使い農薬は出来るだけ使わず微生物群を活用した健康な土づくりを採用したそうです。
ハウス内の隅から隅まで管理されたきれいな圃場は、整然とし行儀よく立茎され、目を楽しませてくれます。

❶は、秋の紅葉の状態で次年度の春芽収量が決まる。❷は、残渣の焼却は病虫害軽減の為、普通の倍の手間を掛けているそうです。❸と❹は、2月22日の萌芽状況と均一の収穫物

栽培で心掛けているのは、秋の状態を良くすることで、斑点病やヨトウ虫対策、そして貯蔵根への養分転流がより多くなるように手入れしているそうです。自然環境農法を研究しながら高品質栽培を目指し、近年は収量も安定して来たそうです。

5月1日の様子ですが整然としておりました。

取組んでいる二人を紹介します

足掛け6年目の栽培経営。こだわりは有機質肥料100%、農薬は除草剤も含め無使用での栽培です。

栽培地 栃木県宇都宮市叶谷町◆ 加藤隆男様

概　要 加藤さんは元学習塾を経営、7年前奥様の病気等も有り一緒に仕事が出来る農業を選択、アスパラ栽培を始める事にしたそうです。どうせやるなら一般と同じ事ではなくとことんこだわって栽培したいと決めていたそうです。こんな時の出会いから色々話しあってお互い共感した事が有機栽培でした。それには肥沃な土づくりにこだわって、作物が十分土から養分吸収できるよう、そして大きな根を張らせ、更には病気にかからないように健全に育てる事にこだわったのです。それにはある目標があったそうです。

加藤さん談

誰が食べても美味しい物、必ず世に通用する物になると確信していたそうです。

右の写真：草の山です。除草剤も一切使用しません。
除草は全て手取り作業で大変です。
でも品質向上には大事なことと、加藤さんは言い切っておられます。

加藤さんのアスパラ各方面から絶賛中です。

販促に関しては身近に得意な方が沢山おられます。皆さん親戚や友人だそうですが、加藤様の栽培に対する情熱に感動して、一生懸命東京都内のレストランやホテルなど営業してまわったり、インターネットを駆使したりして、営業してるそうです。お陰で東京のミシュラン認定の高級レストランなどでも採用され、日増しにリピート数が増しているとのこと。更に広がりを見ているようですから将来楽しみですね。何でも、ランチコース6,000円のアスパラ料理の素材になっているそうです。

加藤さん談

こだわりを貫いて、道半ばですが、やっと大きな花が咲くかな。

『自然環境農法』トマト栽培紹介

素晴らしい「トマト」栽培出来ています。

栽培地 栃木県鹿沼市上日向地内◆大嶋良一様

概　要 大嶋さんは、トマト栽培を始めて、35年になる方です。この間色々な栽培法を研究しながら取組んで来たそうですが、なかなか満足できる栽培は出来なかったそうです。そんな折、イチゴ栽培では、地域で毎年一番の高収益を上げていた同級生がいました。虎岩卯之吉氏です。話を聞いてみると、トーマス菌を使用した土づくりによって根張りも良くなり増収になってきたとの事で土を見て納得、そして紹介を頂き自然環境農法での栽培を始めました。

「最初は戸惑いもありましたが、たった40日でふわふわした田粒化の土になり、ビックリしました。この感触は昔感じていた肌触りが蘇ったのです。以来12年が経過しますがバイオ・グリーンさんの指導を受け年々安定した栽培が出来るようになっております」と話して下さいました。

大嶋さんが気を使う栽培の留意点

苗仕立ての初期管理と2本仕立てにする時の双方の草勢バランスを同じにすること。これは栽培期間中の生育管理も同じと思っています。
後は、お陰さまで堆肥つくりにも菌を使用し、土づくり時には海藻源肥、施肥はバイオさんの施肥設計に基づいて行っていますが収穫も安定して来ています。
灌水と追肥タイミングも草勢をみながら、天候不順時にはバイオ・ガードの葉面散布を行っての管理です。

生産者の皆様へ儲かる農業を

自然環境農法から提案致しております。

儲かる農業を実践する為に、次の事を行っています。

栽培圃場の土譲状態を把握する為に、先ずは土をあずかり土譲診断をさせて頂いております。
その上で、改良点や修正の必要な点を提案し、適切なアドバイスと適正な施肥計画を立案し、作物が健全に生育出来る土づくりから、始めてまいります。

お陰を持ちまして、会員の皆様方にはご理解を頂き、わざわざ土を採取し送って頂きますが、その結果、皆様方から喜びの声が…

- 今年のホウレン草は最高によくでき地域全体で金賞をいただきました。
- 露地アスパラが出過ぎて泥棒がでて町の話題になり仕方なく看板も立てました。
- やはり隣接の地域でも、道路沿いに当農法の看板を立てておいたら近所の方達が資材を分けて欲しいと。地区の販売店は大わらわになった。
- 当農法提案通りの夏季雨よけトマト栽培を有機肥料100%で行い反収10t以上の収穫は地域で一番でした。品質もよく自信が付きました。
- 露地キュウリですが、10月下旬まで収穫でき通常の倍近い収穫が出来ました。

- 高麗人参が無農薬栽培で出来ています。

- 露地アスパラ新植しました、凄いですとの事。
- 「今年の報告によると収穫が間に合わないとの悲鳴も届いております」

- アスパラ菜です、土壌改良して一作目です。
この土地何を作付けしても駄目だった圃場だったんです。

以上一部を紹介しましたが、このほかにも沢山の喜びの声が届いております。

私達は、今日までの経験と実績を生かし、更に有用微生物であるトーマス菌（商品名：トーマスくん）と関連資材を有効活用し、健康な土づくりを合い言葉とし推進して参ります。
【会員の皆さん、自然環境農法研究会は、農薬に頼らない美味しい野菜作りを目指して、人間の健康を維持し未来に繋げて行きましょう】

なぜ儲かる → 土壌が変わると（根張り・生育が変わり）
収穫量が増え → 経費は軽減 → だから儲かるのです。

「自然環境農法研究会会員様各位に事務局からお願い」

トーマス通信も、今回の発行がお蔭さまで８号になりました。

この間、皆様方には取材等で大変なご協力により紙面を飾らせていただき、多くの方々の共感を得てまいりました。ここにご協力をいただいた方々に対し、紙面を通しお礼を申し上げます。

さて、情報媒体には色々な手段方法が有りますが、パソコンの普及等により、スピーディーな情報交換が可能となっています。

そこで、皆様方が日頃取り組んでこられて、良かったこと、苦労したこと、こうしたらより良くなった等、身近な情報をホームページやブログ等に掲載し、情報交換の場にして参りたいと考えておりますので、皆様方の積極的な情報提供を頂きたくお願いいたします。

なお、応募につきましては、下記要領によりお願いいたします。

【応募要領】

１、栽培の途中経過や成果等を写真5枚程度にまとめてください。

２、それぞれの写真に、100字以内でコメントを付けてください。

３、氏名・住所も忘れずに

なお、提供頂いた方並びに採用させて頂いた方には、お礼として「トーマスくん」又は「海藻源肥」を進呈させて頂きます。

長野県中野市赤岩地区より北信五峰方面を望む。撮影日23年4月23日

NPO法人自然環境農法研究会

〒321-3221 栃木県宇都宮市板戸町753
TEL 028-902-1007　FAX 028-667-8915
ホームページhttp://www.biogreen.jp/npo/

株式会社バイオ・グリーン

〒321-3221 栃木県宇都宮市板戸町753
TEL 028-667-1000　FAX 028-667-8915
ホームページhttp://www.biogreen.jp/